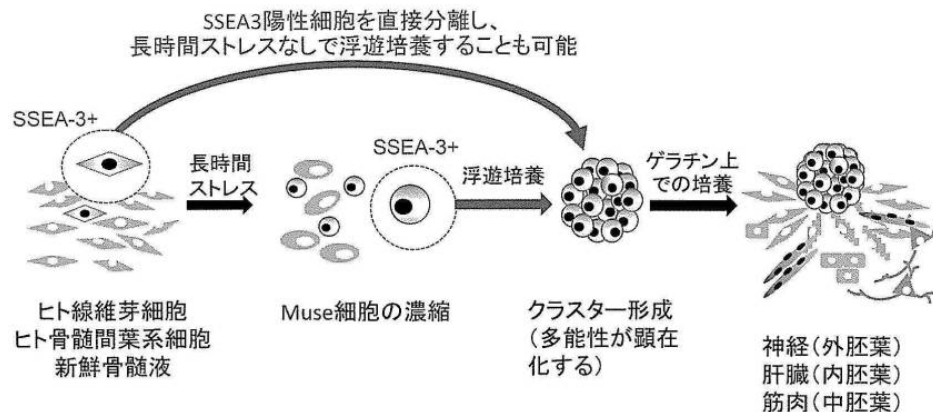


医療・保健衛生

生体組織から得ることのできる多能性幹細胞

発明の名称	生体組織から単離できる多能性幹細胞		
出願人/権利人	出澤 真理、若尾 昌平、藤吉 好則、鍋島 陽一、北田 容章	発明者	出澤 真理、藤吉 好則、鍋島 陽一、若尾 昌平
出願日	平成29年2月8日	出願番号	2017-021036
公開番号	2017-122095	特許番号	6416298
法的状態	登録中		

代表図



発明の概要

生体組織から多能性幹細胞を直接得る方法の提供及び、得られた多能性幹細胞

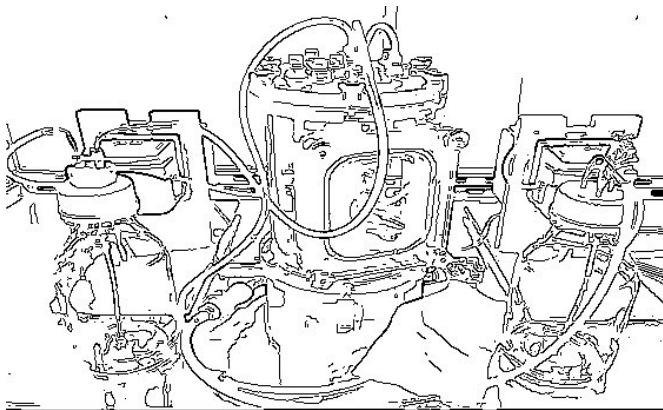
特徴

従来のiPS細胞の樹立には、特定の物質を用いた誘導操作が必要であった。本発明の多能性幹細胞によると、生殖細胞や初期胚を利用せず、外来遺伝子の導入や特定の化合物の導入等の人為的な誘導操作を経ずに、生体組織から多能性幹細胞を得ることができる。外来遺伝子の導入等の人為的操作を経ないために、多能性幹細胞は効率的に作製することが可能であり、治療に用いる場合であっても安全に用いることができる。また多能性幹細胞は、再生医療や機能不全組織の治療等に用いることができ、さらに、細胞分化や組織再生の研究等に用いることができる。

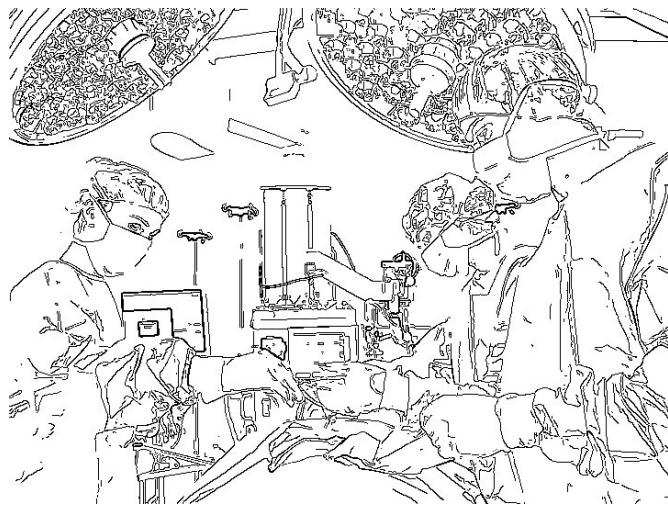
関連分野

医薬、ケミカル、業務用機械、電気機械、専門技術サービス

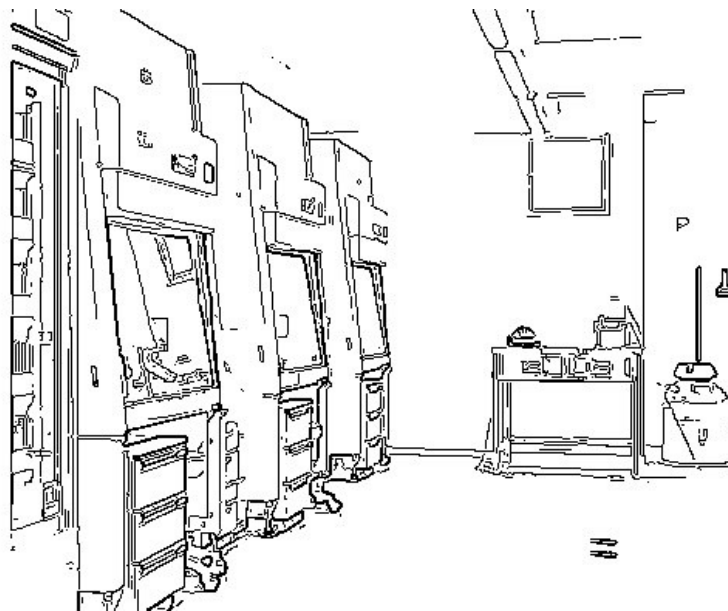
応用の可能性



再生医療



機能不全組織の治療



再生医療等製品

応用の可能性

- ・再生医療
- ・機能不全組織の治療
- ・再生医療等製品

など

本技術の活用が見込める企業の一例

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ・株式会社富士フイルムホールディングス | ・株式会社ニコン・セル・イノベーション |
| ・タカラバイオ株式会社 | ・オリンパスRMS株式会社 |
| ・住友化学株式会社 | ・PHC株式会社 |
| ・中外製薬株式会社 | ・コスモ・バイオ株式会社 |
| ・株式会社ヘリオス | など |

出澤 真理氏の本発明に関する最新動向

・本件特許に関連する情報が、東北大学大学院医学系研究科・医学部の同氏の紹介ページに掲載されている (<http://www.med.tohoku.ac.jp/about/laboratory/003.html>)。三菱ケミカルホールディングスのグループ会社である(株)生命科学インスティテュートによって再生医療への事業展開がなされているとのことである。